

2020年度(令和2年度) 自己評価・学校関係者評価報告書

日本バプテスト春日原キリスト教会附属 恵星幼稚園

I. 本園の教育目標(目指す子ども像)

- ・ 神さまと人に愛される子ども ・ いきいきと生活する子ども ・ 仲間と育ちあう子ども

II. 今年度重点的に取り組む目標・計画

- ・ 縦割り保育の実践を通して異年齢の関わりを深め、成長のきっかけとなる行事も園生活の延長線上に位置づけ、毎日喜んで登園できるような保育をする。

III. 評価項目の達成及び取り組み状況 (評価 A:よくできている、B:だいたいできている、C:あまりできていない、D:できていない)

	評価項目	評価	取り組み状況
1	園児一人ひとりの発達に添った保育の計画及び実施を行う	A	・常勤教諭の話し合いを密にし、園児一人ひとりの状況を把握してその内容を非常勤教諭にも伝え日々の保育に活かすことができた。 ・週案作成時に「前週の子どもの姿」を細かく見直し現状に合った計画を実施することができた。 ・今年度は感染対策により、行事をより日常に近い形で行ったことが、園児にとってプラスに働いた。
2	緊急事態宣言等で制限された環境においても、園の教育目標を失わず、豊かな園生活を保障する。	A	・緊急事態宣言などの非常時に即した対応や子どもに必要な保育の保障を実践できた。「しない」選択でなく、「できる」方法を職員全員で模索できたことは今後にも良い足跡を残せた。 ・キ保連の幼稚園同士で感染症対策の情報を交換し、常に危機感を持ちつつも、園児にとって大切な活動を保障するよう、これまでのやり方にとらわれない視点を持つ機会が増えた。
3	保護者が安心して園児を登園させられるよう配慮し、感染症対策を含む園の取り組みを具体的に知らせる。	B	・年度始めは頻繁に感染症対策の具体的な方法を書面で配布したり全園消毒日を設けたりして、園内の除菌に努めた。 ・園児だけでなく保護者の様子に配慮して、相談やお便りをするよう取り組んだが、年度末のアンケートでは「もっと教師と話したい」と回答される方もあり、ゆったりと相談できない忙しさを醸し出していることを反省する。 ・子育て支援では子どもの発達や保護者の精神状態など広範囲にわたって相談があり、担当者はすぐに答えをだすのではなく、悩みに寄り添いながら、保護者同士での支え合いにつながるようなコミュニケーションを取った。

IV. 総合的な評価結果

評価	理由
B	アンケートから保護者に園の保育をよく理解してもらっていることが分かり、非常時にも園の目指す子ども像の具体化が可能だという経験ができた。おむね今年度の重点課題は達成できているが、非常勤職員も含めて共通理解を深めるための工夫など今後の課題が明らかになった。反省点を次年度に確実に生かすようにしたい。

(評価 A:よくできている、B:だいたいできている、C:あまりできていない、D:できていない)

V. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	環境	砂場の砂の入れ替え・すべり台撤去とそれに代わる大型遊具の設置。園庭の水捌けの改善を行う。室内環境についても話し合いを継続し、より遊びが充実するように構成する。
2	安全管理	感染症予防を引き続き行い、安心して園生活が送れるように努める。緊急事態発生に備えて、『危機管理マニュアル』を全職員で周知する。
3	地域との連携	自治会活動や校区内の活動に協力できないか見つけて参加したり、園行事や保育を公開したりする機会を設ける。

VI. 学校関係者評価委員会の評価

- ・園児一人ひとりの発達に添った保育がきちんとなされていることや、「個」が大切にされていることを高く評価する。
- ・緊急事態宣言の発令や園児の怪我等、イレギュラーな出来事にもしっかりとした園のフォローがあり心強かったし、それらのことを通して更に恵星幼稚園の良さが分かった。
- ・子どもが「幼稚園大好き」で楽しく過ごし、満足して通っている、それがすべてを表わしており、自己受容される保育が実践されている。